

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

本スポーツ健康学研究科は、2016年度に開設されたばかりで、各種の取組みが順調にスタートしたところである。学部における実践的教育は順調に進行し、成果をあげており、研究科も同様にスポーツ界、スポーツ関連業界、学校教育界で活躍する人材の育成に大きな成果をあげられることを期待をする。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学研究科は2016年度開設の新しい研究科のため、各種取組みが2年目となる本年度は、スポーツ健康の分野における多面的な高度専門職業人材の輩出が期待される。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい	いいえ
----------------------	----	-----

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・ 構成員は教授会構成メンバー全員
- ・ 2017年3月1日、15日
- ・ 研究デザイン・フィロソフィーの授業運営について
- ・ 修了までの指導方法

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科質保証委員会の構成員が教授会構成メンバー全員というのはある意味では理想形にも思えるが、質保証には「第三者評価」の要素があるので、教授会構成メンバー全員での評価はその基本において矛盾を持っており、その有効性に懸念がある。示された質保証委員会の議事内容も通常の教授会（教室会議）と変わらないものであるため、教授会から独立した質保証委員会の設置も含め、検討が望まれる。

2 教育課程・教育内容

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

下記の能力を備えた学生に学位を授与します。
(知識・理解)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を見につけている。 「スポーツ」と「健康」およびそれらを取りまく「社会環境」について体系的に理解している。 <p>(思考・判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康に関わる、自らの設定した課題について、スポーツ・健康・教育・マネジメントのいずれかの領域の研究方法を用いて、考察することができる。 <p>(関心・意欲)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。 積極的にスポーツ・健康づくりに自身の役割を自覚することができる。 <p>(態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康学の知を持って社会のニーズに応えることができる。 健康増進やスポーツの社会的発展に寄与できる。 <p>(技能・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することができる。 	
①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい いいえ
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
<p>【教育課程の編成・実施方針】</p> <p>研究科の人材育成目的達成のために下記のような教育課程を編成します。</p> <p>基礎科目：</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康学分野における基礎的な素養を涵養し、また周辺領域の知識を身につけさせることを目的とする。 すべて必修科目とする。 <p>展開科目：</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えた専門的な学びを発展させることを目的とし、3つの科目群を配置する。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ スポーツコーチング科目群：競技スポーツや教育現場において高度な指導能力を発揮するために必要となる知識と技術を身に付ける科目 ▶ ヘルスプロモーション科目群：生涯を通じての積極的な健康づくりを支援できるようになるための知識と技術を身に付ける科目 ▶ スポーツマネジメント科目群：スポーツに関わる組織や人の特性を知り、時代の要請をわきまえ、よりよきスポーツ社会の実現に役立てられる知識と技術を身に付ける科目 「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けないが、修了後の進路として想定される職業分野ごとに履修モデルを提示する。 <p>研究指導科目：</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文執筆指導を行う科目。 	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい いいえ
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学大学院入学案内 http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/sports/sports_senko/index.html 	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。年度末の3月に開催した2回の教授会において、1年間を振り返り次年度への課題を抽出した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

か。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>基礎科目の必修科目である「研究デザイン・フィロソフィー」は、全専任教員によるオムニバス方式で開講され、研究倫理諸問題から学会発表や論文投稿までの研究プロセス、データ統計のスキル等、幅広く学び、「スポーツ健康学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は1つの学問領域としてのスポーツ健康学を心身科学、自然科学、人文社会科学をそれぞれ高い相互補完関係を持ちながら学修する。これらを基礎として、各院生の進路に合わせてスポーツコーチング科目群、ヘルスプロモーション科目群、スポーツマネジメント科目群からバランスよく履修することで、深い専門性とスポーツ健康学の幅広い領域をカバーする知識を身に付ける。また、2年間にわたって指導教授の下「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」によって修士論文作成に取り組む。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>該当なし</p>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>該当なし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>展開科目において、基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えたより専門的な学びを発展させることを目的とした教育内容を提供している。その構成は、スポーツ・健康に関わる理論的知識を修得させる特論科目と重要な課題に対し実践的な対応能力を身につけさせる演習科目から構成される。なお、展開科目では、「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けませんが、職業の分野ごとに履修モデルを提示し、学生はこれに準拠して展開科目を履修することで、修了後の進路に適した学びを修めることができるようにしている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>海外の学会に参加することを勧めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションの際に、研究科長が個別に指導した。 ・担当指導教員が各指導学生の確認を行った。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M1(11月)の研究構想発表会、M2(4月)の研究計画発表会、M2(9月)の研究中間発表会において、教員および他の院生・ 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>学部生の前で進行状況を報告し、質疑応答や助言を受けることで質を高め、M2(1月上旬)修士論文を提出し、M2(1月下旬)の口頭試問において評価を受け、M2(2月)の最終発表会での発表を、修士論文審査員を含む全専任教員が審査して、教授会において合否を判定するスケジュールを明示。</p>	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・2017年度大学院要項スポーツ健康学研究科 P.5</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 基本的に週に1回以上、主指導教員による指導が行うことにしており、副指導教員は主指導教員の研究指導の補助にあたる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。 ・執行部がシラバスをチェックしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input checked="" type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例:後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。 ・今後行うことにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
<p>2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・今後行うことにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。 ・大学院要項に審査までの流れを記載。 ・オリエンテーションの際に、研究科長が説明。</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・大学院要項</p>	
③学位授与状況(学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等)を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・該当なし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 指導教員による日々の指導に加えて、修士論文を提出するまでには、構想発表会、計画発表会、中間発表会の3回の発表の機会があり、指導教員以外の教員や他の大学院生等からの質問や助言を受けることにより、高い水準の研究が遂行されるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【修士】 (～400字程度まで) ※責任体制および手続き等の概要を記入。 教授会により決定した修士論文審査員(1名の主査と2名の副査)が、提出された修士論文を査読した後、口頭試問を行</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

い、修士論文最終発表会において修士論文審査員を含む全専任教員が審査して、教授会において合否を判定する。	
【博士】（～400 字程度まで）※責任体制および手続き等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。	
該当なし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。 ・該当なし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400 字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。	
・すべての授業が少人数であるため、担当教員が各学生の学習効果をきめ細かく把握している。また、11月1日には全専任教員の前で修士論文の構想発表を実施し、質疑応答を通して学習成果を評価した。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400 字程度まで）※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入 現段階では未実施。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
（～400 字程度まで）※取り組みの概要を記入。 本研究科では、受講者が必修科目で6名、選択科目では2から3名と少人数であるため、院生と教員が直接コミュニケーションを取って、より良い授業を目指すことができるため、授業改善アンケートを組織的に使用していない。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・修了後の進路を踏まえた履修モデルを作成し、科目を履修選択する際の参考となるように提示しているが、学生は修了所要単位を1年次にすべて履修することを希望する傾向がある。完成年度を迎えたところで、科目履修の仕方について教育効果と学生の希望を総合的に検討して履修モデルの改定を行う。 ・修士論文構想発表会、修士論文計画発表会、修士論文中間発表会、修士論文最終発表会は、全専任教員が出席することを前提としているが、学内外の会議等のため出席できない教員が出てしまう。発表者がより多くの参加者前で発表できるようにするため、大学院への進学を希望している学部生の参加も認めることにする。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

スポーツ健康学研究科として修得すべき学習成果を明示した学位授与方針が設定されている。
また、基礎科目、展開科目、研究指導科目に区分した教育課程の編成・実施方針が設定されている。
教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、ホームページ等で周知・公表され、検証は教授会でされている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

スポーツ健康学研究科では、研究デザインフィロソフィー等のコースワークとスポーツ健康学演習というリサーチワークが区分され、適切に組み合わせられた教育が行われている。
専門分野の高度化に対応した教育内容の提供については、基礎科目と展開科目で専門分野の高度化に対応する仕組みが提供されている。
大学院教育のグローバル化推進のための取り組みについては、学生に『海外の学会への参加』を勧めている。

③教育方法に関すること (2.4)

スポーツ健康学研究科の学生の履修指導については、新入生オリエンテーションの際の研究科長による個別指導と担当指導教員による確認を行っている。
研究指導計画の学生への明示については、大学院要項に研究構想発表会、研究計画発表会、研究中間発表会、口頭試問、最終発表会などのスケジュールが明示されており適切である。研究指導、学位論文指導については、主指導教員と副指導教員による指導が行われている。
シラバスが適切に作成されているかの検証については、執行部がチェックしている。
授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、新設の研究科のためか『今後行う』とされており、改善の努力が望まれる。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

スポーツ健康学研究科の成績評価と単位認定の適切性の確認については、「今後行うことにしている」とされているが、適切性が担保されるような方法で行うのかを具体的に示す必要がある。
学位論文審査基準は大学院要項に記載の上、研究科長がオリエンテーションで説明しており適切である。
学位授与と状況の把握と就職・進学状況の把握については、新設研究科のため該当しない。
学位の水準を保つための取り組みと学位授与に係る責任体制及び手続きは整備しているが、2017年度は最初の学位授与や就職等が行われるので、その結果を検討し、今後の改善に役立てていただきたい。
学生の学習成果の把握・評価については、11月の研究構想発表会まで時間進行で適切に行われていると判断されている。
一方で、新設の研究科のため、学習成果を定期的に検証する仕組みは『現段階では未実施』とされているが、今後の修士論文中間発表会や修士論文最終発表会での検証方法の確立を期待したい。
また少人数であるため、授業改善アンケートを組織的に使用していないとのことであるが、少人数教育のメリットをもっと強調し、アンケートでは把握しきれないきめ細かい指導による学習成果を組織的に分析していただきたい。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させます。

- (1) 入学後の就学および研究活動に必要な知識や技能を有している。(知識・理解)
 - ・「スポーツ」と「健康」に関わる基本的な知識を持っている。
 - ・研究活動に必要な基本的な技能と、外国語の理解力を持っている。
- (2) 物事を多面的かつ論理的に深く考察することができる。(思考・判断)
- (3) 人間、スポーツ、健康、教育などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、高度専門的職業人として社会に貢献する意欲

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

がある。(関心・意欲)

(4) 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を持っている。(態度)

(5) 自分の考えを適格に表現し、伝えることができる。(技能・表現)

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～200字程度まで) ※取り組み概要を記入。

全専任教員(「指導希望教員」を除く)により、出願書類の研究計画と将来展望の評価をして得点化する。研究科を構成する3つの研究領域から1名ずつ選出された入試委員が筆記試験の出題をする。口述試験は入試委員に研究科長を加えた4名で担当する。書類審査、筆記試験(専門および英語)、口述試験の得点の合計を算出して入試判定教授会にはかり、合否を判定する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度第2回研究科教授会 配布資料05

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

2016年度入試においては、設置認可後からから学生募集となったため十分な周知ができず、定員と同数の10名の応募者しか得られなかった。そして、入学試験の結果、本研究科が掲げる教育研究水準に満たないと判断した受験者を不合格としたため、入学者が7人となった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率(2016年度) (5月1日現在)

種別\年度	2016
入学定員	10名
入学者数	7名
入学定員充足率	0.70
収容定員	10名
在籍学生数	7名
収容定員充足率	0.70

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00以上

【定員未充足の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士	0.5未満
博士	0.33未満

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

教授会において、2018年度入試に向けて広報の方法および入学試験の方法を議論した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の学生の受け入れ方針は設定されており、これに基づき、3つの研究領域から選出された入試委員など入学者選抜のための体制が整備されている。2016年度入試は入学定員と同数の10名の応募であったが、入試の結果、入学者は7名に選抜されており、入試が公正厳格に実施されていることがわかる。

定員の超過・未充足への対応については、2016年度入試での定員未充足の理由として「十分な周知ができなかった(広報不足)」ため応募者が少なく、「教授会で広報の方法を議論した」とのことであるが、2017年度入試では学内外で積極的に広報活動を行い、学生の質を確保しつつ、定員の充足に努めている。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	
①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準 ・法政大学スポーツ健康学研究科(修士課程)における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ	
②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。 ・研究科長 ・研究科教授会主任 ・研究科教授会副主任 ・研究倫理委員会	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	
①研究科(専攻)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。 スポーツ指導法の確立に関連して、コーチング、バイオメカニクス、トレーニング学、メンタルトレーニングを専門とする教員を配置している。また、学校教育における資質・能力の形成については、スポーツ教育学、保健体育科教育法、発育発達学の観点から、実践経験豊かな教員を配置している。医学、健康体力学、健康心理学、公衆衛生学、スポーツ栄養学に関して理論的な知識を修得させるための教員を配置し、運動疫学、体力・機能測定評価に関する実践的な対応能力を身	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

につけさせる演習の担当も、高い知識と技能を有する健康づくりの指導者を養成できる教員を配置している。スポーツを取り巻く、スポーツ社会そのものを巨視的な観点から分析する、マネジメント、マーケティング、政策等の分野において、多くの優れた研究業績を上げている教員だけでなく、スポーツの現場において長年ジャーナリズムやメディアの実務を経験してきた教員も配置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2016年度研究指導教員数一覧（専任）

（2016年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
修士	11	9	4	3

研究指導教員1人あたりの学生数：0.64人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

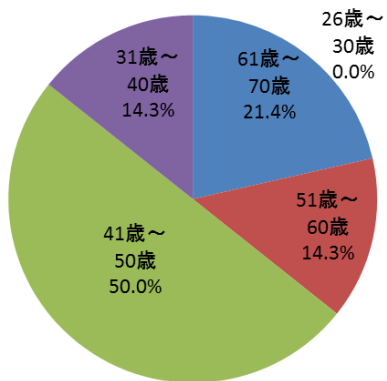
・特になし

年齢構成一覧

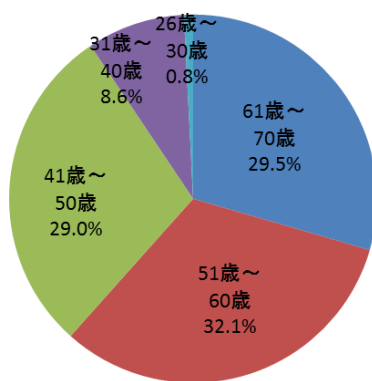
（5月1日現在）

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2016	0人 0.0%	2人 14.3%	7人 50.0%	2人 14.3%	3人 21.4%

年齢構成比
（2016年度スポーツ健康学）



年齢構成比
（2016年度全研究科平均）



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準
- ・スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準
- ・法政大学スポーツ健康学研究科（修士課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

- ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。	S A B
<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にFDの為の組織は設けずに、執行部が中心となり進めている。 <p>【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月1日、スポーツ健康学部棟2階会議室B・C、研究デザイン・フィロソフィーの授業運営、11人 ・3月15日、スポーツ健康学部棟2階会議室B・C、修了までの指導方針、8人 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。	S A B
<p>【研究活動活性化の取り組み】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、各教員に任せている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学研究科の教員に求める能力・資質等が明確化された任用や昇格に関する基準等が整備されている。</p> <p>組織的な教育を実施する上において必要な役割分担等については、執行部の構成、基幹委員会としての倫理委員会の設置が明示されている。</p> <p>教員組織の編制については、スポーツ指導法、スポーツ教育学などの各分野に対応した教員を配置しており適切である。</p> <p>教員の年齢構成については、特定の年齢に著しく偏らないよう配慮はしていないとのことであるが、今後の教員構成に配慮する必要がある。</p> <p>大学院担当教員に関する各種規程は整備されており、適切に運用されていると判断できる。</p> <p>一方で、FDのための組織がないことは改善の余地がある。質保証委員会WGのような組織を立ち上げてFDを確認する仕組みづくりを整える必要がある。</p> <p>なお、研究活動の活性化については、『各教員に任せている』のではなく、組織的に取り組むべきと考える。</p>

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	
①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生は1名(中国人)であり、担当教員および研究科長が中心となって対応している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学研究科の外国人留学生への修学支援について、外国人留学生(1名)に担当教員と研究科長が対応している。

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

該当なし

【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

該当なし

【大学評価総評】

<p>スポーツ健康学研究科は 2016 年度に開設され、スポーツ健康の専門分野に対応した適切な履修モデルを提示しており、完成を迎える 2017 年度はスポーツ健康学の分野における多面的な高度専門職業人材の輩出が期待される。</p> <p>2 年間で蓄積されたデータを定期的に点検・評価し、今後の自己点検改善に活かしていただきたい。特に内部質保証委員会の組織上の位置づけや活動内容については、今後、より具体的に議論されていくことになると思われるので、今後の取り組みを期待する。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。